熊本地域医療センターだより

院長　杉田裕樹　　令和３年(2021年)　６月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311　FAX 096-362-0222

〒860-0811　熊本市中央区本荘5丁目16番10号

2021 7月号　通算194号

熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

医師会病院開設の頃…… P１～２
「病院理念の具現化」というバトンを受けて… P２
昇任挨拶…… P３
上気道炎症状がある発熱患者の
ご紹介の際の来院時間調整について…… P３
新任師長挨拶…… P４

医師会病院開設の頃

元医師会病院院長（柏木医院）　柏木（かしわぎ）　明（あきら）

熊本地域医療センター医師会病院が開設されたのは昭和56年11月であったが、それより35年経過した平成28年マグニチュード7.3の熊本地震に見舞われ病院も被害その機能に支障を来す様になった。早急に建替えを検討し平成29年９月並びに令和元年11月の代議会で承認されその後執行部で鋭意具体的な検討が行われえていることは慶びに堪えない。先日編集子より現建設地について書く様にとの依頼があったが、建設地のみでなく、この際、設立経過を当時の記録と私の不確かな記憶を下に振り返って見度いと思う。

医師会が地域に於ける医療を護る據点とする為に医師会病院が必要であると武見日本医師会長は主張され、各地に医師会病院が設立されていた。熊本市医師会でも明石会長の時代、医師会病院についてそのマスタープラン作製が代議員会の同意を得ており、検討が続けられていた。

次期の末藤会長は、医師会病院が地域に於ける医師会活動の據点となることを洞察され、医師会病院建設に熱意を以って当られた。当時小生も理事の末席を汚して居り、各理事は既設の医師会病院の見学或いは共同利用施設連絡協議会や関連会議等に出席、先ず検査センターを設立する事になった。然し先に鹿児島市医師会が、成人病センターと臨床検査センター設立に際し自転車振興会より相当額の建設資金援助があったことを知った。そこで検体検査のみでなくＸ線・超音波・ベクトル心電図等を駆弛しての生理機能検査に加え５床の人間ドックを併設して将来病院設立への足懸かりにすべきだと話が進んだ。間近に迫ったその年の補助金申請の申込期限に間に合わせようと、昭和44年９月急據代議員会を開催、成人病検査センター設立に関する件を上程した。

処が提案理由の説明に代議員は納得せず、紫煙立ち込める中一時休憩してうどんを食べては議論百出午前２時に至るも採決の気運なく議長は代議員協議会に切替え再度代議員会に諮ることで閉会となった。後に「暁の代議員会」と呼ばれ語り草となっている。１週間後、再度開かれた代議員会では承認されたが、自転車振興会よりの補助金が出なかった場合は、成人病検査センターの設立は見送るとの付帯決議迄なされた。[註1)] 担当の太田副会長が「これでは病院建設まではとても無理だナ？」と慨歎されたのが今も耳に残っている。

幸いその補助金交付の内示もあり、後には県市からの補助もあって、昭和46年９月開所の運びとなったが、何よりも会員の予想以上のセンター債への協力はその後の運営にも追風となった。検査センターは３年目には日本医師会より精度管理優秀施設として表彰を受けると共に収支も単年度黒字を計上する様になった。

その後、執行部では総会に日医の弓倉理事に講演をお願いし、森都医報は毎月本テーマに関する記事を連載、又末藤会長初め各理事は各部会その他医師会関係会合に出席して会員の理解を得る努力を惜しまなかった。

昭和53年４月会長は企画委員会を設け医師会病院設立について諮問された。委員会では全国の医師会病院の状況について見学或いは実績等を調査検討、更には会員へのアンケートによる意識調査を行った結果に基づいて「医師会病院を設立すべきである」と答申した。

病院建設地には、市医師会館の隣接地の谷口産婦人科病院跡地が候補に挙った。同病院は熊本市医師会・熊本県医師会・日本医師会の夫々会長を務められ久留米医科大学長をも務められた谷口弥三郎先生の建設によるものであった。当時その土地は既に山中産経商事の所有に移っていた事から交渉は難航したが、末藤会長初め賀来並びに前田担当理事他関係各位の努力と山中正利社長の好意ある配慮により、初め一部賃貸後日全土地を納得できる条件で所得することができた。[註2)] かくて漸く昭和55年３月の代議員会で医師会病院建設について承認された。

建設に当っては、九州大学工業部青木教授に審査をお願いした結果、将来必ず機能拡大の必要なることを予想して第１次第２次計画に分けた東京の高野設計事所案がコンペにより採用され、内科・小児科・外科・放射線科・麻酔科を標榜して165床のセミオープンシステムの医師会病院が、常勤医８名、全職員109名で開院したのが昭和56年11月であった。

開院当初は一時に大量の入院患者さんを受け入れその後も毎日10～20名の入退院が繰り返され、時にはパニック状態寸前の混乱したことは致し方ないことであった。[註3)] 佐分利副会長初め担当理事そして常勤医他職員の目まぐるしい働きは想像以上であったが、之を克服して業務の流れがスムーズになる迄の現場の方々の意欲ある努力には頭が下った。開院より僅か４年して病院は拡張を迫られ、昭和60年12月より脳外科の増設それに伴う機器施設の増改築が第２期工事として行われ昭和62年３月227床となり、当初の計画通り完成して今日の発展を見るに至った。

それも設立理念をよく理解して頂き物心両面に亘って暖かいご支援ご協力を賜っている会員の御蔭であり、また常勤医を初め全職員の昼夜をわかたぬご精進の結果であり、感謝に堪えない。

以上設立前後のことを考えると、決して平坦な道程ではなかったことが窺い知れると思う。医療環境が厳しさを増す中、この度の建替えが、かかってよかった、紹介してよかった、働いてよかったに加えて、建替えてよかったと誰もが思える日の１日でも早く来るのを祈っている。

最後に、医師会病院へ不断のご指導・ご理解ご協力を頂いている県市ご当局、熊大医学部関係教室の教授初め先生方に深甚の謝意を表すると共に今後共変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。

註1) 柏木明・回想23年森都医報2006.10.P56
註2) 賀来隆典・医師会病院建設の経過報告（その３）森都医報1979.10.P12
註3) 開院10周年記念誌・平成３年11月

「病院理念の具現化」というバトンを受けて

看護部長　吉田（よしだ）　節子（せつこ）

平素より先生方には、ご支援ご協力をいただき感謝申し上げます。

コロナ禍２年目の春を迎え収束の兆しは見えず、職員一同より一層気を引きしめ感染防止に取り組む毎日です。

この度、地域医療センター看護部の発展にご尽力頂いた大平看護部長が定年退職を迎えられ、後任として４月１日付けで６代目の看護部長という大役を拝命しました。看護副部長として大平前看護部長のもと３年間、組織マネジメントとは病院理念の具現化であり、看護部の使命は病院理念の具現化であると教えていただきました。特に、「コロナを入れない・拡げない」ために展開した「コロナ禍における病院理念の具現化」に向けて、どんなに不利な状況であっても、ブレることなく目的達成に向けて強いリーダーシップで統制される上司と働けたことは、感謝と共にこれからの私の強みとなりました。

さて、今年度の看護部目標は、「余力を残して先を読む」～一つ屋根の下にいる患者さんを皆で看る～です。日本看護協会の（厚労省委託事業）「看護業務の効率化先進事例アワード」で最優秀賞受賞後１年以上たちましたが未だに問い合わせが続き、関心の高さが伺えます。余力を生み出し、先を読むためには、人材（財）育成と「一つ屋根の下にいる患者さんを皆で看る」のスローガンのもと勤務時間内に最高のパフォーマンスが発揮できる仕組みの強化が必要です。これからも「ユニフォーム２色制」「ポリバレントナース育成」「walking conference」の３本の矢の更なる強靭化と余力を生む出す戦略を展開し、組織理念の具現化に邁進していく所存です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

熊本地域医療センター
■医師へ直接紹介される方はこちら
☎096-363-3311（代表）
■何科に紹介するか迷っている場合はこちら
※ベテラン看護師が対応いたします！
(平日9:00~17:00) ☎096-372-0600
■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら（連携室）
☎096-366-1323

編集後記

Y　今年11月で創立40周年を迎える熊本地域医療センターの設立時のことから建て替えを心待ちにされていることまで、元院長の柏木明先生に書いていただきました。ありがとうございました。今回昇進された皆様にも励みになると思います。

K　４月から娘プラス息子の弁当作りが始まりました。先日、娘から、「色目重視でお願いできますか～!!（オネガイ）」と。唐揚げ、生姜焼き、卵焼き。同系色の茶色弁当は、女子にはツライそうです。

H　妻と同居し約一ヶ月半が経ちました。今のところは何とか追い出されずに済んでいます。一人暮らしの経験がないこともあり、家事の大変さを知ることができました。ちなみに洗濯が最も苦手です…、もうしたくありません。

昇任挨拶

看護副部長
浅井（あさい）　栄（さかえ）

新緑が目に眩しい好季節を迎えました。平素より医師会会員の先生方には大変お世話になっております。それと共に、未曽有の災禍の中、ご苦労はいかほどかと拝察致します。

前年度末、大平看護部長の定年に伴い、新年度より副看護部長という職位を拝命しました。看護部長を補佐し、教育企画責任者として、看護部組織の看護の質向上に尽力する所存です。

既知の通り、2013年にリニューアルされた病院理念には、「かかってよかった」「紹介してよかった」「働いてよかった」と、３つの「よかった」が謳われています。コロナ禍は、受療動向や働く私たちの行動変容も余儀なくされました。しかし、昨年から開始した入館受付は感染対策のみならず、接遇マナーの教育の機会となっています。また、入院中の患者さんとご家族を繋ぐ on-line 面会など、全ては「かかってよかった」に向けた取り組みとなり、コロナ禍に係わらず看護サービスの質の保証に繋がるものと捉えています。

今年度、看護部は23名の新入看護職員を迎えました。組織の「財」として大切に育て、微力ながら、これまで築いて来られた看護部に恥じないよう取り組んで参ります。ご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い致します。

臨床検査部課長補佐
桑原（くわはら）　智英（ともひで）

2021年４月より臨床検査部の課長補佐を拝命致しました。新型コロナウイルスが世界中に広がり、昨年は大変な年に成りました。第二波、第三波を経験し、感じたことがあります。それは、医療従事者が健康でないといけないということです。もし感染した場合、業務が滞り、病院の機能が停止してしまうということです。「半ばは自己のため、半ばは他人のため」この言葉は、私の師の言葉です。半分は自分の為、半分は他人の為に行動すれば世の中は良くなるという教えです。すべてを捨てて患者の為ではなく、医療従事者である自分が健康で働き、患者さんも元気になってもらうということです。また、この言葉は「自己」つまり自分が先に述べられています。これは「盲人が手を引けば、２人とも穴に落ちる」ということわざと同じ意味も含みます。手を引く者が間違った方向に行けば、それに準ずる者たちも間違った方向に行ってしまうということです。しっかり自分の足下を見て、周囲を見渡し、正しい判断をして、スタッフを導いて行かなければならないと思います。高い検査技術を身につけ、会員の先生方により良い検査を提供できるようにスタッフ一同精進して参ります。

上気道炎症状がある発熱患者のご紹介の際の来院時間調整について

外来運営委員会 委員長　柳井（やない）　雅明（まさあき）

平素より、先生方におかれましては、熊本地域医療センターへ多大なる患者さんのご紹介を賜り、厚く御礼申し上げます。

当センターにおきましては、新型コロナ感染拡大の影響を考慮し、発熱の患者さんの診察は発熱棟で行っております。加えて、上気道炎症状がある発熱患者さんのご紹介の際は、原則として、事前にご連絡をいただき、待合室の密を防ぐための来院時間の調整を行うことで、患者さんならびに職員の感染予防対策に取り組んでまいりました。

しかしながら、事前の来院時間の調整なしで受診された場合に、発熱棟もしくは自家用車中で長時間の待ち時間が発生し、患者さんにご不便をおかけしたケースが発生しております。

このため、発熱がある患者さんの診療の際は、可能な限り事前に先生方と来院時間を調整することで、これまで以上に、患者さんの感染症予防ならびに待ち時間短縮の徹底をはかりたいと考えております。

診療ご多忙の中とは存じますが、感染予防対策へのご協力をなにとぞ、よろしくお願い申し上げます。

新任師長挨拶

本館5階南病棟師長

上村（うえむら）　美穂（みほ）

医師会の先生方には大変お世話になっております。本年４月より、５階南病棟師長を拝命いたしました上村です。

私は、入職以来外科、内科、HCU、外来など急性期を経験し、先生方と多くの患者様の治療や、時には最期の時間に関わらせて頂きました。この間、治療後様々な理由ですぐに元の生活環境に戻ることが困難な方々がいらっしゃる事も経験して参りました。

昨今の高齢化社会に等しく、当病棟でも80・90代の患者様や認知症の患者様のご入院は珍しくありません。その方々が入院前のADLを少しでも維持して頂き、元の社会生活へ帰ることができるよう、リハビリ部門を含めスタッフ一同ケアに努めております。また、介護支援者の課題や、身体機能の変化などで在宅移行が困難な患者様には、院内の医療ソーシャルワーカーらと協力して課題解決ができるよう努めております。また、これからは医師会の先生方からの患者さまのご相談などにも対応して参りたいと考えております。

感染対策として当院では長期に渡り面会制限を設けさせて頂き、ご家族の方々や、在宅につながる地域連携支援者の方々とは直接お会いすることもままなりません。患者様の様子や意向の確認も電話越しでのやり取りが主流となっております。このような中でも、病院理念である「かかってよかった、紹介してよかった」に繋がるよう、これからも取り組んでまいります。

本館4階北病棟師長

大内（おおうち）　和美（かずみ）

平素より先生方には、お世話になっております。昨年度まで外来・検査で看護師主任として務め、今年度４月より、本館４階北病棟（小児科病棟）師長を拝命致しました大内和美と申します。小児科病棟は、熊本方式として、小児初期救急医療を担っています。外来と協働しながら、かかりつけ医の先生方からのご紹介、24時間小児医療に対し、質の高いケアの提供、常に患者さん、家族のニーズを先読みし、病院理念にもあるよう「かかってよかった」へ繋げられるように努力していきたいと思います。

私は、2012年皮膚・排泄ケア認定看護師を取得し、院内を中心に活動しています。小児科病棟でもスキンケアを必要とする患児も入院します。急な入院により、不安を抱くご家族や患児に安心して入院加療できるように取組んでいきたいと思います。

組織貢献に向け、自己研鑽しながら精進したいと思います。至らぬ点が多々あると思いますが、ご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

新館4階病棟（緩和ケア病棟）師長

黒木（くろき）　葉子（ようこ）

今年度４月より、新館４階病棟師長を拝命致しました黒木と申します。先生方には平素より大変お世話になっております。私はこれまで、手術室、一般急性期病棟（外科、内科）を中心に勤務して参りました。一般病棟において終末期にあるがん患者さんを担当し、治療や療養先の選択における意思決定支援や家族看護、在宅移行支援を行う中で多くの方々と出会い、様々な価値観や思いに触れさせて頂きました。関わりの中で、人の心（感情）や行動のメカニズムに関する理解を深めたいと思い、通信制大学で心理学を学び日々の実践に活かしています。

当院の緩和ケア病棟は2001年に開設し、現在は14床で稼働し今年20年目を迎えます。自宅退院も視野に入れ、心身の症状コントロールを行いながら、患者様らしく生活出来るよう支援しています。患者様やご家族の大切な時間の中で私たちに出来る事は何かを常に考えながら、緩和ケア科部長の安部医師をはじめ看護師、多職種と共にサポートをしていきたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2021年７月26日（月）
19：00～20：00

形式／ハイブリット方式　オンライン参加 or 会場参加
オンライン参加：ZOOM　　会場参加：２階多目的ルーム

申し込み方法（オンライン参加の場合）／ kumamotochiiki@gmail.com
までメールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。（後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。）

※会場参加を希望される方は、事前に申し込みください。人数制限によりご案内できない場合がございます。
※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

①症例報告
『膵頭十二指腸切除後、硬変肝、CABG後抗凝固剤継続、低心機能、インスリン使用糖尿病を有するS8肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝部分切除後の一例～周術期の工夫とアウトカム～』
外科　岡部 弘尚 医師

②特別講義
『COVID-19と内視鏡診療
―消化器診療に必要な新型コロナ関連知識―』
CC8：感染対策
消化器内科　田村 文雄 医師